

2026年04月13日

電通北海道、広告の枠を超えて未来づくりの領域をクリエイティビティでサポートする「Future Creative Center Hokkaido (FCCH)」を発足。

株式会社電通北海道（本社：北海道札幌市、代表取締役社長執行役員：木村 平）は、株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員：松本 千里）の「Future Creative Center (FCC)」と連携し、広告の枠を超えて未来領域の価値創造をプロデュースする「Future Creative Center Hokkaido (FCCH)」を発足します。

FCCHは、多彩な個性を持ったクリエイターとプロデューサーから成る電通北海道社内横断組織です。FCCが行ってきた北海道ボールパークFビレッジプロジェクトをはじめ、様々な企業・パートナーと連携したブランド開発や空間・まちづくりなど、多岐にわたった未来づくりのノウハウをFCCHに注入。

FCC独自の未来共創プログラム「Future Creative Session」を北海道内でも展開し、広告の枠を超え、北海道内の地域・企業・団体の未来創造を電通グループのクリエイティビティでサポートします。



■ 「Future Creative Center」とは

Future Creative Centerは「未来価値クリエイティブ集団」を標榜し、総勢150人以上のクリエイターとプロデューサーから成る電通の社内横断組織。まだ解のない問いに立ち向かうこと、そこでクリエイティビティの可能性を示すことをミッションとし、未来のビジョンを描きながら、新しい社会の価値創出を行っています。

<FCC事例のご紹介（抜粋）>

新しい街づくり「北海道ボールパークFビレッジ」未来創造型プランニング

<https://dentsu-ho.com/articles/8000>

「いい会社」の定義を考える。「Well-being Initiative」プランニング&プロデュース

<https://dentsu-ho.com/articles/8135>

マグロの「目利き」職人の技を受け継いだ、品質判定AI「TUNA SCOPE」開発

<https://dentsu-ho.com/articles/7163>

2026年04月13日

北海道から日本の未来をつくる。

現在の北海道は、歴史的な「構造変化の真っ只中」にあります。これまでの「豊かな自然と食」という牧歌的なイメージから、「先端テクノロジーとグローバル資本が交差するフロンティア」へと変貌しつつあり、人口減少と札幌一極集中の加速、物流不足、エネルギー問題、介護・医療の空白など、北海道が抱える課題は「数年後の日本の課題」です。

そこで、北海道は今や単なる地方都市ではなく、日本の「経済安全保障（半導体）」と「環境戦略（GX）」の最前線として捉え、北海道の地域・経済が成長する未来をつくる原動力に、電通グループのクリエイティビティ「言語化」「可視化」「物語化」「実装化」というスキルを生かしたい。以上の思いから、Future Creative Center Hokkaidoをスタートさせることになりました。

クライアントの未来を共創する Integrated Growth Partner

FCCHが取り組む「未来づくり」という仕事は、課題解決型の発想法とは違った、「ありたき未来にむけて何をするといいのだろうか」という未来創造の視点で、「未来を変えたい」という強い思いを持ったクライアントの皆様と並走します。

地域や企業のありたき未来に向けてのビジョンやコンセプトを共創し、価値向上にむけてのブランディング・コミュニケーション、ブランドアクションやエクスペリエンス開発、インナーアクティベーションのプロジェクトなど、成長する未来実現の為に打ち手を一緒に生み出していきます。

FCC独自のメソッド「Future Creative Session」

「Future Creative Session」は、参加者みんなが対話をしながら、アイデアを「重ねていく」ことを重視しています。その場で問いと答えをいったりきたりする、概念と具体をいったりきたりする、意思と合理をいったりきたりする、そうした往復運動を一緒に行っていく中で、「未来のありたき姿」を一緒に練り上げていきます。



2026年04月13日

■FCCH事例のご紹介

苫小牧の未来を共創する「苫小牧市シティブランディング・プロモーション」

苫小牧市未来まちづくり戦略に基づくシティブランディング・プロモーション事業がスタート。様々なステークホルダーと一緒に苫小牧市の未来のビジョンを描きながら、まちのブランドづくりに貢献していきます。



苫小牧市のステークホルダーの方々とFuture Creative Sessionを実施



苫小牧のありたき未来が描かれた



Future Creative Center Hokkaido (FCCH) のご発足、誠にありがとうございます。

電通北海道様の新たな事業展開に対し、心よりお祝い申し上げます。当市におきましては、電通北海道様のサポートにより実施した、シティブランディング事業において、クリエイティブセッションを通じ、様々なステークホルダーとともに、まちの強みや価値、将来像を力強く市内外に発信するツールを手に入れることができました。道内におけるこうした事業貢献が、これから益々進み、様々な地域に展開されることを期待しております。これからの歩みが実り多く、皆様のご発展とご成功につながりますようご祈念申し上げます。
苫小牧市長 金澤 俊

3大学の未来を共創する「国立大学法人北海道国立大学機構ブランディング」

小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学が経営統合したことを受け、北海道国立大学機構のブランドコンセプト、ブランドアクションの開発から、中長期を見据えた広報戦略の策定まで、プレゼンス強化を目指したブランディング支援を行いました。



教員・学生の方々とFuture Creative Sessionで、3大学のありたき未来を共創



様々なブランドアクションのアイデアを開発

「皆で意見を出し合う過程そのものがとても楽しかったです。アイデアを重ねていくことで価値が生まれることを実感でき、今後の研究にも活かしていきたいと感じました。」「いつもは教える立場ですが、今回は学生と同じ目線で参加でき、新鮮な経験でした。こうした場が増えることで、人と人との距離が縮まり、日常的な連携にもつながっていくと感じています。」「他大学の学生や先生方と直接話すことができ、とても貴重な経験になりました。セッションで生まれたアイデアは、前向きに形にしていきたいと思っています。」「立場や専門の異なる人たちが集まり、言いたかったことや言えなかったことを共有し、次のアクションへつなげていく～そのプロセス自体に大きな意味があります。」「とても楽しく、かつ学びの多い時間でした。こうした取り組みが、三大学が連携していくための確かな土台になっていくと感じました。」

Future Creative Session 参加者からのコメント（抜粋）

2026年04月13日

■お問い合わせ

株式会社電通北海道 エクスペリエンスプロデュース局グロースプランニング部

担当：増田

Tel：011-214-5110

Email：mitsunori.masuda@dhj.dentsu.co.jp